平成２８年度　教育懇談会

保護者の皆様との教育懇談会を下記のとおり実施いたしました。

平成２９年２月６日(月)１８時３０分～２０時４０分
於　教育支援センター研修室

参加者	８２名
・保護者	５６名
・教育長・教育委員	５名
中川　修一　教育長　　高野佐紀子教育長職務代理者	
青木　義男　委員　　松澤　智昭　委員	
上野　広治　委員	
・教育委員会事務局関係者	１５名
・小・中学校校長	６名

○講　演

テーマ「オリンピックから学ぶ“生きる力”の育成について」

講演者：板橋区教育委員会　　上野　広治委員

○グループ懇談・発表

テーマ「“生きる力”を育むための家庭でのルールづくりについて」

懇談の要旨は、次ページ以降のとおりです。

平成 28 年度　教育懇談会　グループ懇談要旨

テーマ：“生きる力”を育むための家庭でのルールづくりについて

◎子どもに期待すること

- 自分で考えて行動してほしい。
- 相手の立場・気持ちを考えられる子どもになってほしい。
- 目的のために、失敗したときにあきらめないで継続する力を持ってほしい。
- 多くの人の前で自らを表現できる力を持ってほしい。
- 慈しみの心を持ってほしい。
- 思いやり、あいさつ、協力、信じること、ルールを守ること。
- 成功体験をイメージさせてあげたい。
- やり抜く力を育てたい。
- 自己肯定感を高めてあげたい。
- 協力する力を育てたい。
- 夢を語らせてあげたい。
- 未来予想図を描かせてあげたい。
- 思いやりのある子どもに育ってもらえれば。
- 何でも積極的に自信を持って物事に取り組む子どもになれるといい。

◎家庭でのルールづくりについて

- コミュニケーションの重要なツーとして、食事の時間を大切にして、時間を決めて、みんなで食べる。その際、テレビは見ない。
- 困った時こそ、家族に話そうというルールづくり。
- 動物を通じたお手伝い、散歩をさせる。
- 規則正しい生活をするため、スマホの時間を２１時までと決めている。
- 子どもの自主性を大切に、我慢して子どもを見守る。
- 親は子どもの味方だということを伝える。
- あたりまえのことは社会に出て気づくので、言い続けていく。
- 他人との評価ではなく自己評価をして、声をかけてあげる。
- 失敗から学んで自分で気づくと、行動できるようになる。
- あたりまえのことをあたりまえに指導できるような内容をやっていくといい。（あいさつ、家族と話す時間をとる。）
- 子どもたちの意見を否定せず聞いて、褒めて、間違っている部分は指導する。
- なぜルールが必要なのか、子ども本人がわからないと反抗するだけなので、落としどころを見つけて、自分で考えさせて納得させる。
- 子どもが自発的に納得するようにするためには、経験が必要。（例えば、夜中までインターネットを見ていて朝起きられず、遅刻をしてしまったりするが、受験期を迎えて、初めて自分で自分の首を絞めていることに気がつく。）
- 家族で話やできたことを共有して、親・子ども・男女関係なく一人の人間として向き合うことで、ルールが自然に生まれる。
- 一人の人間として子どもをバックアップしていきたい。
- 子どもの力を信じて待つ。

- 習い事を始めたら、やめないように継続する力、主体性をもって発言させるような力を持たせるために、スモールステップを積み重ねて、成功体験、達成感、満足を親が押し付けるのではなく、本人が経験するようにする。
- 学校に行って楽しいことを見つけ出して、どう活かすかを保護者は見守る。
- 線路を引くのではなく、見守る力をつけるべき。
- 思いやり、協力、信じることがあれば、いじめにつながらない。
- １日１回褒めてあげる。自信を持たせてあげる。
- すなおのルール。「す」がすばらしい、「な」がなるほど、「お」がおもしろい。
- 生活のリズムは、子ども中心の生活にして、帰ってきてから２０時から２１時まではテレビを消して、親も読書の時間を作る。
- 子どもと同じ趣味を持つ。
- できれば夕飯を一緒にとって、会話をする。
- あいさつは、親からあきらめずに言う。
- 時間を忘れないようにする工夫など、どんな些細なことでも話してあげる。
- 言われてからでないと動かない、ここまででいいやと思ってしまう、自分に甘いということに対しては、ダメだと思わないで、親が褒めてあげる。
- あたりまえのことを褒めてあげる。
- 自分ができていないところを理解できるようにしてあげる。達成感を持たせてあげる。
- 励ますことも時には大事。
- あたりまえのことをあたりまえのようにできないからやらない。提出物などを出さないことに対しては、ある程度準備も手伝ってあげる。
- 気力を充実させるために体力をつける。
- 中学生はプライドが高く、親にお願いしてこない。
- 追い込まれたり、焦ったりした時に成功したことは、いい経験になる。たまには追い込むことも大切。
- 親がPTA 活動に参加することが大切。反省点としては、子どもを一人にしてしまい、後ろめたいところがあるが、PTA 活動をやめてみると、子どもから続けてもらっていて良かったという声があった。
- 学校に親がいてくれる安心感。親からすると背中を見せることができた。地域との距離が近くなり、心配してもらえる。
- あいさつの大切さが身につく。無理をしてでもあいさつさせることによって、人間関係が構築される。
- 叱る。怒られる体験が必要。
- 我が家の子育ての考え方について、ぶれないことが大切。
- できたことをさりげなく褒めて、やる気を出させてあげる。
- 「こんなことができました。」ということを学校の先生と共有できると、いい所を伸ばしてあげられる。

◎教育長・教育委員の講評

- レベルが上がれば上がるほど、指導者からの指導を求める傾向にある。
- いつまでが子育てなのか、家庭のルールなのか、永遠に続くのではないかと思う。
- 親の姿を子どもに示していくことが重要ではないか。
- 最高峰の方、プロフェッショナルの方の話を聞くということは、子どもにとっても非常に大切なこと。意見を聞いて、真摯に受け止めて、子どもに体験させるのもいい。
- バラは、冬は葉っぱもなく、棒のようになっているが、バラがたくさん花を咲かせる条件としては、一番寒い時期にたくさんの肥料をあげることである。子育てにも関係していて、子どもがつらい時に愛情という肥料が必要。大切に育てていけばいくほど、大事な時に何をするかが重要である。
- 厳しくつらい時ほど親の力が必要。子どもの状況をチェックして、大変な時期だと思ったら、抱きしめて、愛情を注いでいただければと思う。
- 一つ一つの家庭に、育て方は何通りもある。
- 親が我慢することが大事というのが共通意見であった。
- それぞれの家庭、それぞれの子どもに答えがある。
- 大事なのは、答えを求め続けること。それは、時代、個性に応じて柔軟に対応できることである。
- 経験の中に失敗の要素を入れたい。子どもや親が失敗しても、そこから学び続ける意欲が大事。それを積み重ねることによって子どもも親も育まれていく。
- 日々悩みは尽きないが、最後に社会で役立ってもらえるようになればと思う。
- 褒めるという言葉が多く出ていた。
- 子どもたちを褒める。褒めるためには子どもたちが何をしているかよく見ていないと褒められない。根拠がなく褒めても、子どもたちには伝わらない。
- 子どもたちの日常を見て、心を込めて褒めることが大切。
- 誰かから褒められると、また頑張ろうと思う。自信につながっていく。
- あたりまえのことをあたりまえにという言葉がたくさん出ていた。難しいことをしなくても、あたりまえのことを守れる家庭に育てば、そこから学び、力を付けてくれるのではないか。
- 子どもに対しての思いは、いくつになっても通用するものである。
- 子どものために、親も学校の先生たちも地域の人たちも信頼しあっていく環境をつくることが必要。
- 大人がぐっと我慢をして、子どもの前では、いい先生だね、いいお母さんだね、いいおじさんだねという肯定的な言葉が飛び交う板橋区になったらいいと思う。